

タイ中等教育における日本語学習動機、学習意欲を高める要因 ——日本語学習行動増加群と減少群の比較——

吉川景子

1. はじめに

タイの日本語学習者数(78,802人)のうち、中等教育段階での学習者が約5割(38,685人)を占めている(国際交流基金 2009)。タイの中等教育における日本語教育は「外国語としての日本語」であり、教室内での学習意欲を高めることが重要である(吉川 2011)。また、学習意欲に関わる要因の一つとして動機づけがあげられる。タイの日本語学習者を対象とした学習意欲、動機づけ研究には成田(1998)、宇都木(2011)、吉川(2011)などがある。成田(1998)は大学生を対象とし、日本語学習動機と成績との関係について調査を行っている。その結果、学習動機において「統合的志向」が強い学習者は成績が高く、「利益享受志向」、「誘発的志向」が強い学習者は成績が低い傾向にあることが示された。宇都木(2011)は日本語能力と動機づけの関係について大学生を対象に調査を行っている。その結果、上級学習者は初中級学習者と比べ、動機づけが弱いことが明らかになった。吉川(2011)では高校生を対象とし、日本語学習意欲を高める要因と学習行動との関係を調査し、内発的動機付けの重要性を示唆している。

一般的に動機づけが強く、学習意欲も高いと多様な学習行動を自ら頻繁にとるようになると考えられる。しかし、先行研究においては、ある一時期の日本語能力や学習行動から学習動機、学習意欲を調査するにとどまっている。本研究では、タイの高校生の日本語学習行動について1年次の初めと終わりに調査を行い、日本語学習行動が増加していた群と減少していた群とに分け、日本語学習動機および日本語学習意欲を高める要因にどのような差があるかを明らかにすることを目的とする。それにより、何が日本語学習を持続させ、促進するのかを考える一助としたい。

2. 調査の概要

2.1 目的

タイの高校生の日本語学習行動について、1年次の初めと終わりに行った調査を比較し、その結果、学年末時点で日本語学習行動が増加していた群と減少していた群との間に、日本語学習動機および日本語学習意欲を高める要因においてどのような違いがあるのかを明らかにする。

2.2 方法

2.2.1 調査実施年月

第1回調査は2009年6月から7月(高校1年次の授業開始時、以下、開始時調査とする)、第2回調査は2010年1月から2月に実施した(高校1年次の授業終了時、以下、終了時調査とする)。

タイの高校では一般的に5月の上旬から中旬に新年度が始まり、翌年の2月で授業が終わり、2月末から3月上旬にかけて期末試験期間に入る。

2.2.2 調査対象者

本研究では①週4コマ以上の専門科目として日本語を開講している、②タイ中等教育用教科書『あきこと友だち』を使用している、③タイ人日本語教員がいる高校を対象とし、調査を行った。

開始時調査と終了時調査で対象とした高校生1年生のうち、開始時と終了時の両方に回答が得られた26校、707名(男169名、女529名、男女別不明9名)を分析の対象とした。

各対象者の行動得点(学習行動についての質問紙20項目の得点)を合計し、開始時と終了時の点数を比較した結果、総得点が増加していた学習者は319名、開始時と終了時の点数が同じ点だった学習者は21名、減少していた学習者は367名であった。増加していた群の平均増加点は7.11、減少していた群の平均減少点は-7.6049であった。そこで、平均増加点より高い学習者126名を増加群(以下、増加群とする)、平均減少点より低い学習者149名を減少群(以下、減少群とする)とした。

2.2.3 質問紙

(1)日本語学習動機質問紙

日本語学習動機についての質問項目は縫部ほか(1995)、成田(1998)、李(2003)などを参考に36項目を作成した。本質問紙は開始時調査で使用した。

(2)日本語学習意欲を高める要因質問紙

日本語学習意欲を高める要因についての質問項目は坂本(2004)を参考に、タイの高校生が遭遇し得る場面や教科書の学習内容に関する質問なども含め、想定される日本語学習意欲に関する質問、37項目を作成した。本質問紙は終了時調査で使用した。

(3)日本語学習行動質問紙

学習行動については李(2003)を参考に、日本語学習に直接関係するものだけではなく、高校生が日常生活の中で日本語に接する可能性があると考えられる場面も考慮して、日本語学習としての諸行動を取り入れ、20項目を作成した。本質問紙は開始時と終了時調査の両方で使用した。

これらの質問項目をまず日本語で作成し、質問の意図が忠実に反映されるよう、タイ人日本語教員にタイ語に翻訳してもらい、次に1組の日本人、タイ人日本語教員に互いに意味のニュアンスを確認しながらチェックしてもらった。最後にもう1名のネイティブチェックを受けた。

2.2.4 調査手続き

質問紙を各校に配布、または郵送し、各校の教員が授業中に学習者に質問紙を配布し、記名法で回答してもらった。各校の教員には書面で「研究以外の目的には使用しない」旨を、学習者には質問紙上で「この調査は研究目的のためで、学校の成績とは関係がない」旨を教示した。各項目への回答は、「日本語学習動機質問紙」については「4 とてもそう思う」「3 そう思う」「2 そう

思わない」「1 全然そう思わない」、「日本語学習意欲を高める要因質問紙」については「4 とてもがんばろうと思う」「3 がんばろうと思う」「2 あまりがんばろうと思わない」「1 全然がんばろうと思わない」、「日本語学習行動質問紙」については「4 いつも行っている」「3 よく行っている」「2 時々行っている」「1 全然行わない」の4件法で求めた。質問紙はタイ語版を使用した。

3. 結果と考察

まず、開始時と終了時の学習行動についての結果を示し、次に、学習行動の増加群と減少群の間の日本語学習動機および日本語学習意欲を高める要因について比較検討した。「日本語学習動機」は開始時調査、すなわち、高校1年生の最初の時期に行った調査結果であり、予め持っている学習動機のことである。「日本語学習意欲を高める要因」は終了時調査、すなわち、高校1年生の最後の時期に行った調査結果であり、授業を通してどんなときに“がんばって日本語を勉強しよう”とやる気が出たのかを調査したものである。

3.1 開始時と終了時の日本語学習行動

開始時と終了時の学習行動を比較すると、行動得点の合計点（学習行動についての質問紙 20 項目の得点を合計したもので、80 点満点）の平均は開始時が 56.79 点(SD 9.29)、終了時が 56.05 点(SD 9.44)であった。t 検定⁽¹⁾の結果、開始時と終了時で差は認められなかった。

次に、項目別に開始時と終了時を比較し、増加/減少しているかを検討した(表1)。

表1 日本語学習への取り組み方 平均値

学習行動	開始時	SD	終了時	SD	t 値
(1)日本語の授業に出席している	3.92	0.30	3.75	0.52	7.248**
(2)日本語の授業中、先生の質問に答えている	2.89	0.78	2.88	0.73	0.317
(3)インターネットで日本の興味のあることについて調べる	2.71	0.85	2.58	0.81	2.959**
(4)宿題が出たら、提出期限を守る	3.23	0.69	2.94	0.71	8.009**
(5)日本語の授業で積極的に発表している	2.83	0.75	2.84	0.73	0.288
(6)タイ人のクラスメートと授業以外でも日本語で話す練習をする	2.84	0.87	2.70	0.82	3.095**
(7)日本語の学習方法について自分で工夫している	2.74	0.85	2.74	0.84	-
(8)日本語の授業で一生懸命先生の説明を聞いている	3.44	0.63	3.32	0.65	3.358**
(9)日本語で日本の映画やドラマを見るようにしている	3.05	0.88	2.90	0.91	3.141**
(10)日本人に会ったら日本語で話しかけてみる	2.20	1.02	2.37	0.96	3.252**
(11)テストや宿題の間違いを後で調べる	2.74	0.80	2.66	0.79	1.804
(12)日本語の授業で一生懸命友達とペアやグループで練習している	2.98	0.81	2.93	0.76	1.318

(13)日本語の勉強で難しくてわからないことがあったら、解決しようと努力する	2.93	0.80	2.89	0.74	0.931
(14)授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする	2.38	0.92	2.57	0.89	3.856**
(15)うちで日本語の予習や復習をしている	2.52	0.75	2.42	0.77	2.524*
(16)自分の日本語能力を試す機会（日本語コンテストや日本語能力試験など）があれば、積極的に参加している	1.97	0.99	2.29	1.02	6.053**
(17)日本語の歌の歌詞の意味をチェックしたり、歌ったりする	2.66	0.94	2.64	1.00	0.302
(18)自分で考えて宿題をする	3.36	0.72	3.05	0.79	7.844**
(19)先生（タイ人でも日本人でも）と日本語で話す練習をする	2.55	0.89	2.61	0.84	1.351
(20)わからない単語や文があったとき、教科書や辞書で調べる	2.86	0.85	2.98	0.80	2.695**

**: $p < .01$ *: $p < .05$

各項目における開始時と終了時の評定平均値の差の検定（t検定）の結果、(10)、(14)、(16)、(20)の4項目は有意に増加が見られ、(1)、(3)、(4)、(6)、(8)、(9)、(15)、(18)の8項目については有意に減少していた。

【増加傾向】「(14)授業時間以外でも先生に日本語や日本文化について質問をする」、「(20)わからない単語や文があったとき、教科書や辞書で調べる」からは、先生をリソースとして活用する、自分で調べてみる、といった自発的学習行動が行われるようになってきていることが示されている。

【減少傾向】一方、授業への慣れからか、「(1)日本語の授業に出席している」、「(4)宿題が出たら、提出期限を守る」、「(8)日本語の授業で一生懸命先生の説明を聞いている」、「(15)うちで日本語の予習や復習をしている」、「(18)自分で考えて宿題をする」といった項目において評定値の減少が見られる。

3.2 学習行動増加群と減少群の日本語学習動機

開始時と終了時の日本語学習行動が増加していた群と減少していた群の間に、日本語学習動機においてどのような違いがあるのかを検討した。その結果を表2、図1に示す。

表2 日本語学習動機 平均値

日本語学習動機	増加群	SD	減少群	SD	t 値
(1)日本の映画、テレビ番組が好きだから	3.24	0.64	3.34	0.63	1.354
(2)日本人の友達がほしいから	3.29	0.66	3.46	0.66	2.139*
(3)日本語は簡単そうだったから	2.46	0.69	2.57	0.69	1.320
(4)日本の会社に就職したいから	2.89	0.85	3.13	0.79	2.471*
(5)英語以外の外国語を勉強してみたかったから	3.47	0.60	3.53	0.63	0.827

(6)日本に住んでみたいから	3.48	0.70	3.67	0.57	2.391*
(7)日本・日本文化に興味があるから	3.40	0.65	3.62	0.61	2.999**
(8)タイ語と日本語の違いに興味があるから	3.24	0.56	3.34	0.63	1.434
(9)特に理由はなく、科目の中に日本語があったから	2.21	0.84	2.26	0.97	0.439
(10)日本の歌の歌詞を知りたいから	3.12	0.71	3.32	0.76	2.281*
(11)将来日本で勉強したいから	3.10	0.81	3.40	0.80	3.019**
(12)両親が日本語を勉強するようにすすめたから	2.62	0.85	2.85	0.81	2.261*
(13)日本文学に興味があるから	2.66	0.76	2.95	0.83	2.977**
(14)日本人の友達とコミュニケーションをとりたいから	3.32	0.69	3.39	0.73	0.832
(15)日本語の試験でいい成績が取れそうだから	2.75	0.68	3.00	0.68	3.090**
(16)現在の生活で役に立つから	3.24	0.70	3.39	0.60	1.930
(17)日本語は世界の言語の中で重要な言語のひとつだから	3.29	0.58	3.38	0.59	1.278
(18)日本のファッションに興味があるから	3.25	0.73	3.51	0.67	3.030**
(19)日本の歌が歌えるようになりたいから	3.30	0.77	3.41	0.74	1.184
(20)将来のキャリアのために有利だから	3.47	0.58	3.48	0.59	0.212
(21)仲のいい友達が日本語を選んだから	2.39	0.98	2.42	1.05	0.276
(22)日本語の勉強に興味があるから	3.48	0.65	3.64	0.54	2.213*
(23)日本の雑誌や漫画が読めるようになりたいから	3.53	0.63	3.64	0.67	1.343
(24)大学の入学試験のために必要だから	3.23	0.67	3.39	0.64	2.002*
(25)タイの文化や考え方を日本人に伝えたいと思ったから	3.29	0.71	3.35	0.73	0.634
(26)異文化を理解したいから	3.43	0.61	3.55	0.59	1.682
(27)日本人の友達とメールや手紙のやりとりをしたいから	3.13	0.78	3.32	0.81	1.874
(28)数学や理科など、ほかのコースは入れなかったから	2.21	1.06	2.01	0.99	1.556
(29)将来日本で働きたいから	3.21	0.82	3.38	0.76	1.777
(30)日本の先進技術に興味があるから	3.37	0.60	3.61	0.58	3.332**
(31)日本人と親しくなりたいから	3.13	0.70	3.42	0.69	3.511**
(32)中学で日本語を勉強したことがあるから	1.54	0.92	1.90	1.12	2.927**
(33)日本人の考え方が知りたいから	3.13	0.62	3.31	0.67	2.326*
(34)日本を旅行したいから	3.70	0.62	3.79	0.47	1.282
(35)将来の仕事に役立つから	3.44	0.68	3.55	0.54	1.419
(36)日本人と会話がしたいから	3.47	0.63	3.60	0.57	1.787

**：p<.01, *：p<.05

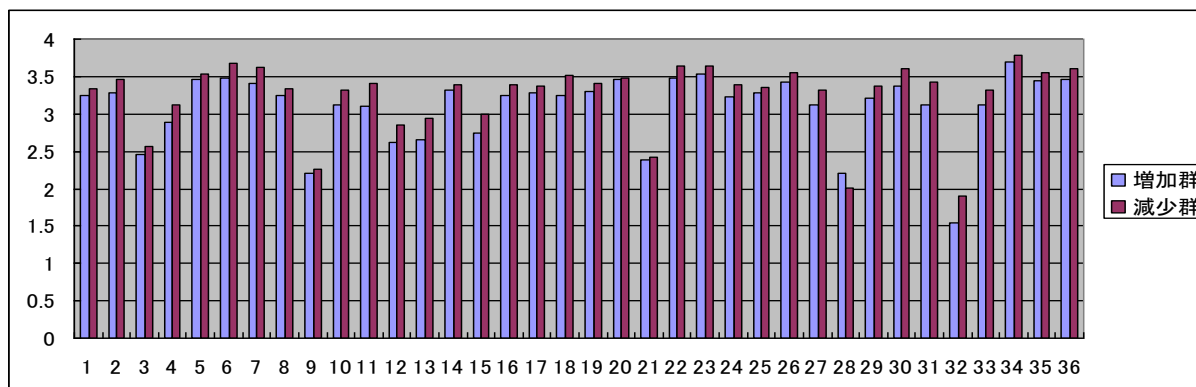


図1 日本語学習動機 平均値

日本語学習行動の増加群と減少群との間の、開始時に測定された日本語学習動機の各評定値の差の検定 (t 検定) の結果、5%水準で有意となった動機項目は(2)、(4)、(6)、(7)、(10)、(11)、(12)、(13)、(15)、(18)、(22)、(24)、(30)、(31)、(32)、(33)の16項目で、その16項目の評定平均値は、終了時に学習行動が減少していた群の方がすべて高かった。すなわち、1年次終了時に日本語学習行動を減少させた群の方が、増加群よりも、開始時の学習動機が高かったことを示している。

3.3 学習行動増加群と減少群の日本語学習意欲を高める要因

開始時と終了時を比較し、日本語学習行動が増加していた群と減少していた群との間に、日本語学習意欲を高める要因においてどのような違いがあるのかを検討した。その結果を表3、図2に示す。

表3 日本語学習意欲を高める要因 平均値

日本語学習意欲を高める要因	増加群	SD	減少群	SD	t 値
(1)日本語の授業がよく分かったとき	3.36	0.59	3.13	0.60	3.208**
(2)将来行きたい大学について関心を持ったとき	3.51	0.65	3.25	0.76	3.003**
(3)授業中、友達とペアやグループで日本語を練習したとき	3.30	0.62	3.11	0.59	2.565*
(4)授業で『あきこと友だち』の「読解」を勉強しているとき	3.24	0.60	3.13	0.69	1.405
(5)友達の日本語の成績が自分よりよかったとき	3.33	0.74	3.28	0.73	0.653
(6)先生にしかられたとき	3.17	0.77	2.91	0.80	2.679**
(7)授業で日本文化を体験したとき	3.53	0.63	3.31	0.68	2.813**
(8)日本語のクラスで仲のよい友達ができるとき	3.30	0.67	3.20	0.63	1.279
(9)日本語の宿題や作品に先生がコメントを書ってくれたとき	3.35	0.60	3.12	0.63	3.080**
(10)授業で『あきこと友だち』の「文法」を勉強しているとき	3.28	0.70	3.01	0.73	3.125**

(11)日本人の前で発表するとき	3.29	0.67	3.13	0.77	1.729
(12)日本語能力試験などの試験を受けようと思ったとき	3.62	0.56	3.37	0.76	3.133**
(13)日本語の授業がおもしろいとき	3.58	0.58	3.36	0.72	2.849**
(14)日本語のクラスの友達からはげまされたとき	3.46	0.63	3.35	0.68	1.404
(15)日本語の授業やイベントなどで日本人と触れ合う経験をしたとき	3.45	0.63	3.20	0.70	3.113**
(16)日本語の成績が下がったとき	3.56	0.64	3.36	0.79	2.240*
(17)授業で『あきこと友だち』の「聴解」を勉強しているとき	3.29	0.56	3.01	0.68	3.712**
(18)クラスメートの前で発表するとき	3.26	0.63	3.07	0.70	2.319*
(19)日本語の授業がよく分からないとき	3.39	0.73	3.09	0.80	3.177**
(20)将来つきたい職業に関心を持ったとき	3.62	0.56	3.43	0.76	2.361*
(21)先生にほめられたとき	3.57	0.60	3.42	0.64	1.978*
(22)日本語のクラスで日本語の勉強のライバルが見つかったとき	3.35	0.77	3.12	0.85	2.321*
(23)日本語が上手になっていると自分で感じたとき	3.64	0.50	3.39	0.69	3.516**
(24)文化祭や日本語キャンプなどの日本語の行事を体験したとき	3.49	0.59	3.28	0.75	2.592*
(25)授業で『あきこと友だち』の「会話」を勉強しているとき	3.39	0.61	3.15	0.69	2.955**
(26)日本語の成績が上がったとき	3.71	0.49	3.52	0.63	2.697**
(27)先生が授業中、席をまわってみてくれるとき	3.49	0.60	3.23	0.68	3.284**
(28)友達が自分の発表を一生懸命聞いてくれたとき	3.44	0.65	3.29	0.66	1.862
(29)日本語の授業がつまらないとき	2.99	0.77	2.48	0.86	5.118**
(30)授業で文字（ひらがな、かたかな、漢字）を勉強しているとき	3.48	0.56	3.19	0.70	3.888**
(31)日本語コンテストがあるとき	3.40	0.71	2.97	0.80	4.630**
(32)自分の日本語の成績が友達よりよかったとき	3.62	0.53	3.29	0.80	4.081**
(33)先生にはげまされたとき	3.60	0.60	3.42	0.68	2.305*
(34)自分の日本語の宿題や作品が教室に貼ってもらえたとき	3.48	0.67	3.33	0.81	1.656
(35)友達が一生懸命日本語を勉強しているとき	3.63	0.52	3.36	0.71	3.662**
(36)授業で『あきこと友だち』の「日本文化」を勉強しているとき	3.55	0.59	3.28	0.65	3.534**
(37)日本語の発表が上手にできたとき	3.48	0.62	3.15	0.69	4.128**

** : $p < .01$, * : $p < .05$

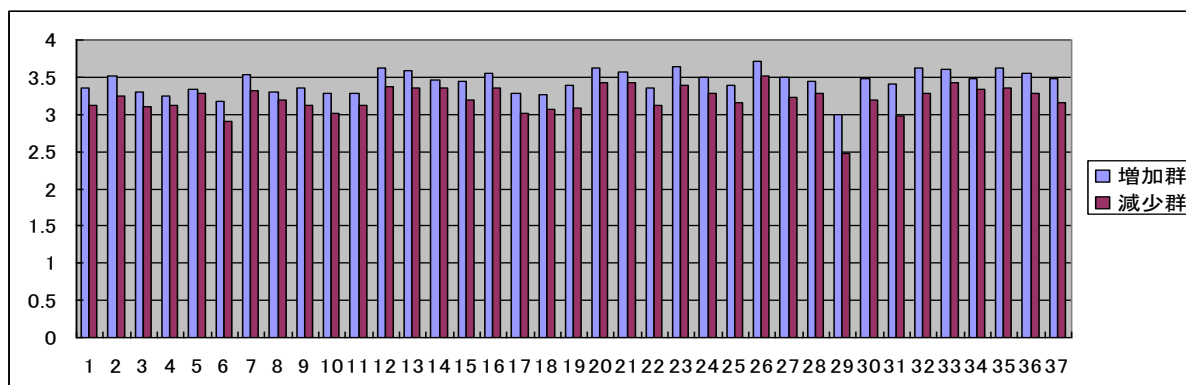


図2 日本語学習意欲を高める要因 平均値

日本語学習行動の増加群と減少群との間の日本語学習意欲を高める要因項目の評定平均値の差の検定 (t 検定) の結果、5%水準で有意となった学習意欲を高める要因項目は 37 項目のうち、30 項目であった。その 30 項目の平均値は終了時に学習行動が増加していた群の方がすべて高かった。

増加群の評定平均値の高い項目は順に「(26)日本語の成績が上がったとき(3.71)」、「(23)日本語が上手になっていると自分で感じたとき(3.64)」、「(35)友達が一生懸命日本語を勉強しているとき(3.63)」であった。減少群の評定平均値の高い項目は順に「(26)日本語の成績が上がったとき(3.52)」、「(20)将来つきたい職業に関心を持ったとき(3.43)」、「(21)先生にほめられたとき(3.42)」、「(33)先生にはげまされたとき(3.42)」であった。増加群、減少群ともに平均値の低かった項目は順に「(29)日本語の授業がつまらないとき」、「(6)先生にしかられたとき」であった。平均値の差が大きい項目は順に、「(29)日本語の授業がつまらないとき(差 0.51)」、「(31)日本語コンテストがあるとき(差 0.43)」、「(32)自分の日本語の成績が友達よりよかったとき(差 0.33)」、「(37)日本語の発表が上手にできたとき(差 0.33)」であった。

〔学習行動増加群の日本語学習意欲を高める要因〕

増加群の学習者は全体的に日本語学習意欲を高める要因の平均値が高いが、その中でも(23)、(26)、(35)から、自分の日本語能力が伸びたと実感できたときや友達の影響を受けたときに、特に学習意欲が高まることがわかった。また、(31)、(32)、(37)の項目を見ると、自分の成績や発表、コンテストなど、いずれも自分の日本語能力を発揮するパフォーマンスと関係があることが示唆された。

〔学習行動減少群の日本語学習意欲を高める要因〕

減少群の学習者は、(26)の成績が上がったときに関して増加群と同様に学習意欲が高まることわかった。(20)から、将来やってみたい職業と日本語が結びついたときのように目標が意識できると学習意欲が高まると考えられる。(21)、(33)からは、先生に声をかけられることによって、

学習意欲が高まることがわかった。

この「日本語学習意欲を高める要因」すなわち「どんなときに学習意欲を高めるか」は1年の授業を通してどんなときに“がんばって日本語を勉強しよう”とやる気が出たのかを調べたものである。質問項目として取り上げたのは、日々の日本語授業の場面で遭遇しうることである。学習行動増加群を見ると、そのほぼ全てにおいて意欲が増すと答えており、がんばろうと思う度合いが高かったことが明らかとなった。

これらの結果および前述の「学習行動減少群が、増加群よりも、当初の動機が高かった」という結果から、最初に持っている学習動機より、日々の授業を通して学習意欲を喚起することの方が重要であり、その学習意欲を維持させることで実際の学習行動につながると考えられる。倉八(1998)は、日本の英語教育について教室内での意欲の喚起こそが英語学習持続への鍵だと述べているが、本研究の結果は倉八(1998)を支持し、タイの中等教育における日本語教育に関しても、日々の授業を通しての学習意欲の喚起が重要であることが示された。

4. まとめと今後の課題

タイの高校生の日本語学習行動について、開始時と終了時に行った調査結果を比較し、日本語学習行動が増加していた群と減少していた群との間に、日本語学習動機および日本語学習意欲を高める要因においてどのような違いがあるのかを明らかにした。

日本語学習動機に関しては、1年次終了時に日本語学習行動を減少させた群の方が、増加群よりも、開始時の学習動機が高かったことがわかった。日本語学習意欲を高める要因に関しては、学習行動増加群がほぼ全ての項目において意欲が増すと答え、がんばろうと思う度合いが高かったことが明らかとなった。このことから、日々の授業を通して学習意欲を喚起することの重要性が示された。教師はどんなときに生徒の学習意欲が高まるかということを考え、学習意欲に焦点をあてた授業を進めていくことが重要である。学習意欲と学習行動が学習成果にどのような影響を与えているのかに関しては今後の課題としたい。

注

- (1) 統計処理にはエクセル統計 2006 を使用した。

参考文献

宇都木隆寿(2011)「日本語能力と日本語学習動機づけの関係—タイ人大学生を対象にして—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第8号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp65-74

倉八順子 (1998) 『コミュニケーション中心の教授法と学習意欲』、風間書房

坂本裕子(2004) 「第二言語習得における学習の動機付けと学習意欲—中国人日本語学習者の事例—」『言語コミュニケーション研究』第4号、愛知淑徳大学言語コミュニケーション学会、pp60-76

成田高宏 (1998) 「日本語学習動機と成績の関係—タイの大学生の場合—」『世界の日本語教育』第8号、国際交流基金、pp1-11

縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査—ニュージーランドの場合—」『日本語教育』第86号、日本語教育学会、pp162-172

吉川景子 (2011) 「タイ中等教育における日本語学習意欲を高める要因と学習行動との関係—日本語教師の日本語指導時の内発的動機づけ要因—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第8号、国際交流基金バンコク日本文化センター、pp75-84

李受香 (2003) 「第2言語および外国語としての日本語学習者における動機づけの比較—韓国人日本語学習者を対象として—」『世界の日本語教育』第13号、国際交流基金日本語国際センター、pp75-92

国際交流基金「日本語教育国・地域別情報 2011年度 タイ」

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/thailand.html> 2013年7月6日